

## 5 耕作放棄地対策実務の手引き

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 手順1 体制整備

### 1-1

- 市町担当者が中心になって農業委員会、JA、農業改良普及センター等による連携組織（**対策チーム**）を作ります。

#### 【ポイント】

対策チームは実務担当者（実際に現地に出向いて活動できる人）を選びましょう。

担当：市町メイン

### 1-2

- 対策チームにおいて各構成組織の役割を明確にしながら、お互いを補完しあうような人間関係や雰囲気構築します。

#### 【ポイント】

対策チームの会合は**定期的**に開催（最低月1回）し、お互いの気心が知れるようになると意思疎通もスムーズになります。

会合の最後には、次回の日程を決めておきましょう。

担当：市町メイン・全員

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 1-3

- 市町管内の耕作放棄地の実態を把握して対策チーム内で情報共有します。

### 【ポイント】

耕作放棄地実態調査などを利用して地図上に農地の管理状況を落としたものを作成してください。

市町内の担い手情報も整理しておきます。

デジタルデータで作成するのが便利です。

モデル的に特定の地区を捉えて取り組むといいでしょう。

担当：市町メイン・全員

## 1-4

- 対策チーム全員で地域づくりの視点を織り込みながら取組方針を決めます。

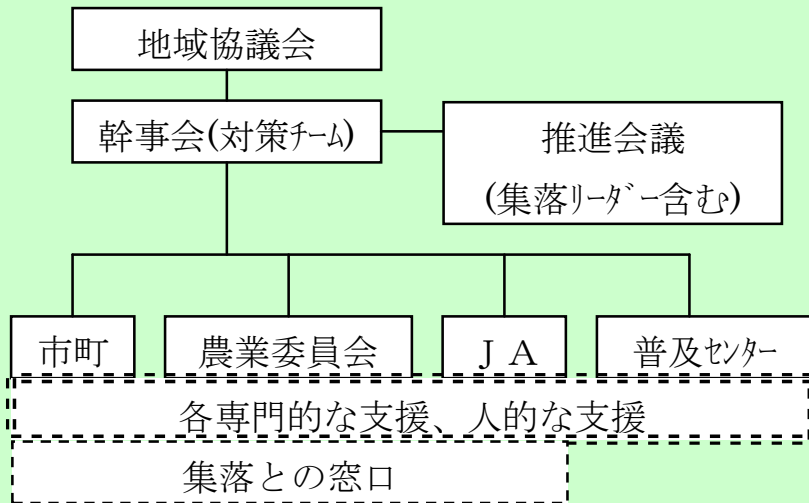
### 【ポイント】

耕作放棄地の解消は農家や集落から発案されるべきですが、現実にはそう甘くはないので、行政側からの強いメッセージとして「地域の人々が何をなすべきか？」を考えるきっかけとなるようにしてください。

担当：市町メイン・全員

1-5

●対策チームの役割分担表



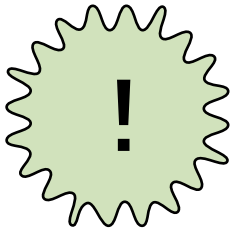
○構成メンバーの役割分担の代表的な例

機関	啓発活動	リーダー掘起し	推進会議	集落点検	合意形成	実践活動	事後点検
市町	◎	◎	◎	○	○	△	◎
農業委員会	○	○	○	△		○	
JA		○	△			△	
普及センター			△	△	△	△	

注) ◎：取組の主体者、○：取組の補助者、△：参画・専門支援

●集落との窓口は、市町、農業委員会、JA担当者の誰が分担してもかまいません。

●また、集落ごとに窓口となる人が異なる方が、構成員の問題意識の共有と対策チームのメンバー個人の負担が軽減されるのでいいでしょう。



## 気をつけましょう①

### ●対策チーム内で1人が背負い込まない

……対策チームの中心は、基本的には地域づくりの視点が必要な上に、損得を超越した考え方が求められるので、地元に着した**市町の担当者**が必要があります。しかし、対策チームのほかの人が他人事になってしまえば、中心になってやるべき立場の人のやる気も出ません。課題は、1人で抱えたりせず、対策チーム内で役割分担を明確にしながら、協力しあって取り組みましょう。

### ●仕事は人がやるものです。対策チーム内で意見が異なるようでは声をかけられる集落リーダーもいい迷惑です。

……スムーズに進まないときは、関係する組織で人事異動も含めて大胆な人選も時には必要です。

### ●既に発生してしまっている耕作放棄地を農地に戻すことも重要ですが、数年後に元の荒地に戻ってしまっは何にもなりません。

……耕作放棄地を解消する対処療法(外科手術)とともに、**未然に防止することのできる集落の体質改善**が必要です。



手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 手順2 啓発活動と集落リーダーの掘り起こし

### 2-1

- 取組方針を広く集落段階へ周知して効果的な啓発活動を行いましょう。

#### 【ポイント】

行政頼みの時代は終わりました。

**地域住民自らが考えて行動する**ことが求められていることを必ず伝えましょう。

対策チームは側面支援の立場であることを認識してください。

担当：市町メイン・全員

### 2-2

- 集落(自治会組織)などへ研修会や意見交換会の開催を通知し、出席してきた集落代表を1次的な集落リーダーとして位置づけて継続的に情報提供します。

#### 【ポイント】

さまざまな機会を利用して耕作放棄地解消の雰囲気づくりや情報提供をしてください。

(市町広報、JAエリア通信ほか)

担当：全員

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 2-3

- 自治会組織以外に転作実行組合、JA総代、市町OBなど様々な切り口から集落リーダーたりうる人材を発掘していきます。

### 【ポイント】

集落リーダーも1人では孤立してしまいます。

ひとつの集落内に複数のサブリーダーを確保し、研修会などは複数で参加してもらいましょう。

担当：市町メイン・全員

## 2-4

- いくつかの啓発活動を実施していく中で、集落リーダーを集落ごとに固めていきます。

### 【ポイント】

最初に目論んでいた人が案外適任でない場合もあります。リーダーになり得る人の**動静や言動に注意**しましょう。

担当：市町メイン・全員

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 2-5

- 対策チームのメンバーと集落リーダーとの意思疎通の場としての推進会議を設置します。

### 【ポイント】

集落間の良い意味での競争心を煽り、危機感を認識してもらうため、リーダーを一堂に集めて会議を開催しましょう。活発な意見交換が大切です。

担当：市町メイン・全員

## 2-6

- 推進会議も定期的に行い、耕作放棄の問題点、地域づくりの意義・方法などの理解を深めます。

### 【ポイント】

人間誰も不安になったり孤立したりします。そういう時フォローしたり、相談したりできる場としてください。

**「皆同じようなことで悩んでいる・・・」**

担当：全員



手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 2-7

- 集落リーダーが呼びかけ人となって「**集落座談会**」を開催します。

### 【ポイント】

集落内の人が集まりやすい時間帯を設定しましょう。  
「**夜の会**」になりがちですが、家族の理解も得ながら割り切ってがんばってください。

担当：市町メイン・集落リーダー

## 2-8

- 集落座談会では、集落リーダーが中心となって、**集落自らが取り組まなくてはならないこと**だという意識を共有するよう努めます。

### 【ポイント】

制度や政策を**批判したり、受身であっては、何も現実には変わらない**ことを伝えることができれば上出来です

担当：全員・集落リーダー

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 2-9

●座談会や推進会議などでの取組状況などについては、定期的な周知に努めます。

### 【ポイント】

「集落通信かわら版」などのように定期刊行チラシを作成して配りましょう。

経費があれば郵送でも、また座談会で説明してもいいでしょう。

担当:市町メイン・集落リーダー

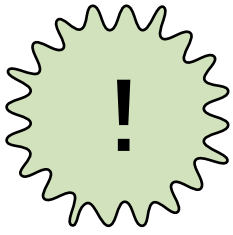
## 2-10

- 啓発活動は継続実施し、内容はぶれないように注意します。
- 夜の会が負担にならないよう、時には休みます。
- 耕作放棄地対策は、継続することが重要です。

### 【ポイント】

対策チームメンバーや集落リーダーは健康に努めましょう。うまくいかないことがあっても、やり方や人・地区を変えるなどして、**ひとつからでも成功体験を会得し、継続こそが耕作放棄地対策であるとの気持ち**で取組んでください。

担当:全員・集落リーダー



## 気をつけましょう②

### ●うまくいかない地区があってもへこまない

- ……耕作放棄地解消に向けた地域活動に取り組むかどうかの判断や決定権は集落側にあるもの。

ある地区が前向きに取り組まないからといって対策チームが責任を感じる必要はありません。

むしろうまくいかなかった理由を分析して他の地区の推進に役立てるようにしましょう。

他の地区がうまくいき始めると風向きが変わることだってあるのかもしれない。

本マニュアル中に記述するのは本意ではありませんが、限られた時間と人材をいたずらに消耗しないためにも、耕作放棄地に対して「何もしない」ということも集落の総意に基づく判断であると尊重することも、時には必要です。

### ●座談会は1人で説明しない

- ……説明する側が一人では大勢の人数に反論されてしまうとその場の雰囲気はネガティブに流れてしまいます。

反論の大部分は「今のままでいいのではないか」とか「私がやることなの?」といった反発心や誤解などによるものがほとんどです。

推進する側が、時には交代しながら根気よく丁寧に説明することで理解が深まり、誤解が解けることも多くあります。

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

### 手順3 実態把握と集落点検活動

#### 3-1

●農地や集落の地図を市町から配布(土地の区画や道路、住宅の形状等がわかるもの)して集落点検に利用します。

#### 【ポイント】

航空写真の画像などがあれば、わかりやすくて有効です。  
デジタルデータとして整理するのも良いでしょう。  
カラーマジックや野帳なども用意しましょう。

担当:市町メイン・集落リーダー

#### 3-2

●集落の実態を把握して話し合い活動のベースとするため、集落内を徒歩で巡回して点検します。

#### 【ポイント】

複数人数で班編成し、実際に歩くと実態がよく見え、理解が深まります。

「**あの人たちが勝手にやっている**」というようにならないように、取り掛かる前に集落全体の総意となるよう合意しておきましょう。

担当:集落リーダーメイン

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

### 3-3

- 改善すべきところや気がついたこと、気になることなど耕作放棄地に関すること以外も含めて地図に書き落としていきます。

#### 【ポイント】

資料の整理を自分たちでやることによっていろいろなことに気づきます。

「気づきの心」を育てましょう。

担当：集落の人たち

### 3-4

- 点検地図が完成したら全戸に配布するなど、あらかじめ周知したうえで集落座談会を開きます。

#### 【ポイント】

まずは現状の認識を皆で共有しましょう。

次に、耕作放棄地があればどうするか？

これからのことを、集落で皆で一緒に考えていくようにしましょう。

担当：集落の人たち

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 3-5

- 地図の作成と並行して農地の活用状況や農業機械の状況、今後の農業経営に関することなどを内容とした農家アンケート調査を実施します。

### 【ポイント】

配布したら1週間後までに集落リーダーたちが戸別訪問して補足項目を聞き取りながら調査表の回収をしましょう。

「鉄は熱いうちに打て」です。

担当：集落の人たち

## 3-6

- 調査票を回収しながら戸別の意見をじっくりと聞き取って具体的に記録していきます。

### 【ポイント】

座談会では出ない意見が戸別の聞き取りでは出てくることが多いはずです。

小さな声にこそ貴重な意見が潜んでいることに気づいてください。

担当：集落の人たち

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 3-7

- 調査表を回収し、集計する作業なども集落の人たちみんなですることにより意義があります。

### 【ポイント】

集落内の特定の人（パソコンが使える人）から「パソコンで集計してあげる」という申し出があっても、集落の人たちが**寄ってたかって集計作業をする**ように誘導しましょう。

担当：集落の人たち

## 3-8

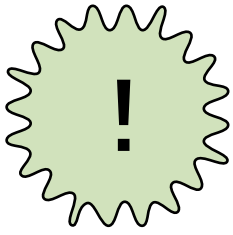
- 調査票には自由意見を必ず書き込むように！  
小さな意見も皆で共有します。

### 【ポイント】

調査票を集計するときに、**自由意見が目にとまって**集落内の人々がどんなことを考えているのかをお互い知ることができるのです。

このチャンスを特定の人に任せたらもったいないのです。

担当：集落の人たち



## 気をつけましょう③

### ●集落内アンケートの実施にあたって

・・・戸別のアンケート調査でありがちなことは、家長の意見のみが出されるケースです。

どこにでもあることですが、一軒の家の中でもさまざまな意見があります。これだけ多様化した時代ですから、一人の意見だけですべてを代表するということはあり得ません。

耕作放棄地に関する問題点や心配事は、総論では誰もが気になっているはず。

具体的な意見や手段をいろいろな人から出してもらって、これをより良い方向へのエネルギーに変えていくことが重要です。

### ●集落内アンケートと集落地図の活用

・・・アンケートの集計結果と集落地図をもって集落座談会を開催しましょう。

座談会を通じて、今後まとめあげていくことは

- ①個々の家族の現状と10年後の状況
- ②農地の現状と10年後の状況
- ③農業経営の現状と将来の見通し(又は目標)
- ④農業機械の所有状況と今後の更新に関すること・・・などです

### ●楽しい「集落ビジョン」を作りましょう

・・・肩肘張った話し合いは誰も面白くないはずですが。集落ビジョンは目で見えるだけでなく、心に響くワクワク感が伴ってこそ集落の皆さんで共有できるものです。

ビジョンはその名のとおり視覚に訴えかけるものですが、視覚だけでなく聴覚や触覚など五感を刺激するようなプロセスを踏んで作り上げることを心がけましょう。そして、できあがった集落ビジョンもワクワクするものであれば実現することがきっと楽しくなることでしょう。



手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 手順4 集落内の意向把握と合意形成

### 4-1

#### ●ここからが本番！

地域の人たちが考えた集落、農地、農業の将来像を反映した「集落ビジョン」を作成します。

#### 【ポイント】

アンケート調査を通して得た家長の意見だけでなく、**女性や地域の後継者、子供たちの意見も反映**させましょう。

担当：普及センターメイン・市町・集落リーダー

### 4-2

- 座談会は年齢や性別ごとに開催します。
- 役員が中心となって意見の集約をします。
- 素案を作り上げて再び座談会、戸別訪問を繰り返し、集落内の合意形成を図ったうえで集落ビジョンを仕上げます。

#### 【ポイント】

家の代表者だけでの座談会では、年齢や性別などの壁があり、意見が言えない雰囲気となることも多いので、手間はかかりますがいろいろな手を尽くして、各層から意見を吸い上げる努力をしましょう。

担当：普及センターメイン・市町・集落リーダー

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 4-3

**集落ビジョン**を仕上げていく中で、耕作放棄地に関することをきっかけに集落内のいろいろなことが見えてきます。

【ポイント】(集落ビジョン4つの柱)

- ① 集落の**農地**をどうするか？
- ② **農作業**をどうするか？
- ③ **農業機械・施設**をどうするか？
- ④ **担い手**をどうするか？

担当：普及センターメイン・市町・集落リーダー

!

### 気をつけましょう④

●補助金などを目当てとした活動にしない

……補助金がなくともやらなくてはならないことや、やったほうがいいことはあるはずです。

今後地域をどのようにしていくのかということ、集落の人々自らが判断していくように仕向けましょう。

行政側が補助金などによって誘導してしまうと、往々にして「行政からの押し付け」という形で捉えられたりします。

このようなやり方が将来にわたって長続きしないことは明白です。農家や集落の自助努力を妨げるようなやり方は、結果が不調になったとき「行政側への責任転嫁」という形になりがちです。

**補助金は劇薬！**

**副作用が大きかったり、成分を分解できるだけの体力(能力)が集落側に備わっていることが求められます。**

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 手順5 農地の管理者(担い手)と管理手法の決定

5-1

### 集落側の情報の整理

#### ●集落側の情報をまとめます。

まずは集落で耕作放棄を予防するための条件を整理します。

#### 【ポイント】

農地の団地化や適地適作の可能性を検討しましょう。  
市民農園などとしての利用が可能かも検討しましょう。  
牛やヤギなどの放牧はできるか考えてみましょう。

担当:普及センターメイン・集落リーダー

#### ●農地や人に関する集落情報のデータベースを整理します。

#### 【ポイント】

現在、何を作っていますか。  
農地の流動化をする考えはありますか。

担当:市町メイン・農業委員会・集落リーダー

#### ●今後のことを検討します。

#### 【ポイント】

JAが作業支援できる品目はありますか？  
経営的に選択可能な品目をいろいろ検討しましょう。  
非農地的な利用方法も検討材料です。

担当:JAメイン・普及センター・集落リーダー

## 5-2

## 農地を託す相手の模索

## ●農地を託す相手を探します。

## 【ポイント】

認定農業者の研修会などで集落側の情報を提示して、引き受けてもらえるかどうかの調整活動に入りましょう。

営農組合同士の連絡調整の場があれば、認定農業者の場合と同様、集落側の情報を提示して調整しましょう。

担当：市町・農業委員会メイン・集落リーダー

## ●農地管理システムを構築できますか？

## 【ポイント】

市町段階に「農業公社」などがある場合、耕作放棄地の受け皿として機能させることが可能か検討してみてください。

JA香川県が提唱している「1支店1農場構想」も農地管理システムとして機能させることができるか検討してみてください。

担当：市町・JAメイン

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

5-3

他の人へ農地を委託する場合

## ●農地の委託

### 【ポイント】

農地の委託先**本人と具体的に相談**しないとなかなか話はすすまないでしょう。

基盤整備ができていたら・・・とか、農道が整備されていたら・・・といった要望が出る場合、思い切って地権者とともに相談して整備してしまいましょう。

本格的な基盤整備でなくてもかまいません。

**進入路の拡幅だけでも実施**しましょう。

他人の農地を横切らないと入れないような農地やスイッチバックしないと危険なところは地権者ですら嫌なもの。ましてや他人が喜んで引き受けてくれる訳がありません。

水利慣行やあぜの草刈などは、地元対応で。

特に集落外の認定農業者の場合、集落側の配慮がなかったら手間が何倍もかかることになるので、せっかく借りてくれても、すぐに手放されてしまう可能性大と心得ておきましょう。

担当：市町・農業委員会メイン・集落リーダー

## 5-4

## 認定農業者などへ農地を集積する

## ●作業分担(その1)

貸した農地での作物の栽培作業は認定農業者に任せ、あぜ草刈の作業などは地権者や集落側で実施します。

## 【ポイント】

「農地を任せたのだから・・・」といったような人任せの取り組みでは、その認定農業者にアクシデント等が生じたときにどうしようもなくなり、再び耕作放棄地に逆戻り。

認定農業者への委託によって起こりうるリスクを軽減するためにも、あぜ草刈などの周辺作業は集落側で分担するよう誘導しましょう。

理想は、認定農業者に作業を任せつつ、集落側も作業班を編成して共同作業ができる体制にしておくことです。こうしておくことで、耕作放棄を防ぐためのセーフティネットが二重になるのです

とは言っても、最初から理想的な体制は実現できませんので、できることから積み上げていきましょう。

担当：普及センターメイン・集落リーダー

## 5-5

## 認定農業者などとの協力体制を考える

## ●作業分担(その2)

認定農業者との作業分担に関する協議を行います

## 【ポイント】

認定農業者と協議をするためには、集落側も組織化されているほうが何かと便利でしょう。

そこまで話が進んだのであれば、もうひと踏ん張りして営農組合の組織化を進めましょう

営農組合があれば、耕作放棄地化しないように認定農業者に委託するもよし、営農組合で取り組むもよし、協力し合うもよし、営農組合のオペレーターとして活躍してもらうもよし、構成員が認定農業者の経営を手伝うもよし、認定農業者とともに別組織を立ち上げてよし等々・・・、話し合い活動のやり方しだいでは活動の範囲や方向性が無限に広がります。

その上、組織の運営や経営が軌道に乗れば、従業員を雇用して新たな担い手を集落自らが創出することすら可能です。

夢物語ではないのです。

担当：普及センターメイン・集落リーダー

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

5-6

他の組織などへ農地を預ける

### ●他の営農組合に委託する

#### 【ポイント】

土地の区画や水路がパイプライン化されているなど、条件整備が進んでいる農地以外は、よほどのことがない限り引き受けてもらえるケースはまれでしょう。

集落の一部の人たちだけでも、他の営農組合の構成員となって、集落内の耕作放棄地をそこに持ち込むように誘導しましょう。

担当：市町メイン・集落リーダー

### ●営農組合以外の組織に委託する

#### 【ポイント】

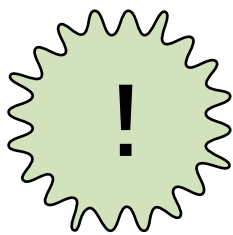
企業参入やNPOなどの組織と連携する方法もありますが、参入する側の企業やNPOにとって有益な魅力ある地域でなければ選ばれることが少ないでしょう。

地域の熱意や情報発信、相談窓口の充実などの条件をあらかじめ整備しておく必要があります。

このような方策を検討するのであれば、個別の相手を想定して条件を整えながら、相手方と具体的な話し合いを進める必要があります。

担当：市町メイン・集落リーダー





## 考えてみましょう

### ●「新規就農者」である場合

……初期投資に無理がないようにしないとけません。

集落に定着できるよう住居の準備が必要かもしれません。

自分たちでやれない耕作放棄地の管理を他人にやってもらおうとするのであれば、「そこまでして……」と思えるような条件整備も必要かもしれません。

相手が認定農業者や他地区の作業受託集団、営農組合であっても同じことが言えます。

もし、あなたが耕作放棄地管理を依頼される立場なら……?と考えてみてください。

### ●自らの集落内に営農組合を！

個人でできないのであれば、他人に任せるのではなく、自らが組織を結成して、組織が担い手になれば良いのです。

このやり方であれば集落内の話し合い活動がそのまま営農組合の運営のための会合へとつながります。

他人に資産(農地)管理を任せて儲け始めたらどう感じますか？  
それなら自分たちで取り組んだほうが良くありませんか？

#### ①自分の土地を自分で管理

→②自分の土地を他人が管理？

→③自分たちの土地を自分たちが管理？

**どの選択をすすめますか？**

## 5-7

## ● 作目選択(土地利用型作物の場合)

## 【ポイント】

- 認定農業者であろうが営農組合であろうが、農地の区画は広いに超したことはありません。  
しかし、栽培管理作業に支障が出ない程度であれば良しとしましょう。 やむを得ません。
- 水稻の生産を検討する場合  
水が自由に使えるようにしてください。  
水引きが複雑でない農地が耕作放棄されているようであれば何とかなる可能性が高まります。
- 麦類の生産を検討する場合  
畑地化しやすい土壌であることが理想です。  
暗渠排水を実施しましょう。  
弾丸暗渠でも実施すれば効果はあります。
- 大豆を検討する場合  
渇水対策本部が設置されるような気候の時でも灌水できるようにしてください。  
**水のことは集落での対応が必須です**

担当:市町・普及センターメイン・集落リーダー

## 5-8

## ●作目選択(園芸作物の場合)

## 【ポイント】

- 園芸作物を認定農業者が担当する場合と、水稻生産を認定農業者に任せて、耕作放棄地に集落側が園芸作物の作付けを行うパターンの双方が考えられます。
- 集落側が組織化されていれば、どちらの場合でも対応しやすいですが、個人単位で対応しようとするのは難しい面があります。  
個人での対応となると、個人の都合によって再び耕作放棄地化の恐れがあります。
- 園芸作物は機械化を進めにくい反面、付加価値の高いものが多いので、農地が整備されていなくても取り組みやすいという利点があります。  
先々の販売のことも考慮して、地域特産物が導入できるよう十分な指導をしてください。

**集落単位の営農組合があれば、いろんな対応が可能です**

担当: JA・市町メイン・集落リーダー

## 5-9

## ●作目選択(高付加価値型作物の場合①)

## 【ポイント】

- 耕作放棄地にハウスを建設する方法があります。  
この場合、当然、任せようとする認定農業者の経営形態との兼ね合いによって、様々な品目が栽培可能です。  
施設化だけでは付加価値を高めることは難しいので、より収益性が高まる販売方法を指導することが重要です。
- そばを栽培する場合、玄そばで出荷するのと粉にして出荷する、まして、ざるそばに加工して販売するのでは収益性に雲泥の差があります。  
楽して付加価値が高まることはありません、農業に限らずどの業界でも同じです。  
耕作放棄地となる原因のひとつに「農業では儲からない」という声がありますが、加工したり直接販売したりすることも検討してください。

**農産物には付加価値をつけましょう**

担当: JA・普及センターメイン・集落リーダー

## 5-10

## ●作目選択(高付加価値型作物の場合②)

## 【ポイント】

●付加価値のつけ方にもいろいろあります。

(例1)農産物を加工して**農産物ではなく食品**として提供する。

(例2)雑穀栽培や有機栽培など**作物そのものに(「健康」や「安心」、「エコ」等という)価値**をつける。

(例3)農作業の体験やオーナー制度、棚田の管理と農作業を連動させた行事等の**企画やイベントに(物語として等の)価値**をつける。

●付加価値を高めた上で、地域おこし活動と連動させることによって、地域に人を呼び込みましょう。  
人が訪れるようになると他人の目が気になり、耕作放棄が防止される効果もあるでしょう。  
訪れる人を相手に産直施設を経営するのはどうでしょう？ 農地を遊ばせておくのはもったいない！

**農産物の付加価値はアイデア次第で無限の広がり**

担当: JA・普及センターメイン・集落リーダー

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

## 立地条件を考える

5-11

### ●中山間地域の産直施設の場合

#### 【ポイント】

例えば、中山間地域に産直施設を設置したとして、売れ残りそうなものはどうしますか？

- ・・・出荷者が持って帰るのではなく、産直側が買い取って惣菜に調理して、そこで販売してはどうでしょう。できたての手作り大豆煮豆などきつとよく売れるはず。手打ちそばもいいでしょう。ただし、手打ちうどんは、一般的に単価設定が難しいかもしれませんが、..

中山間地域ならではの雰囲気や条件をうまく活用しながら、対策チームが集落と一緒に取組めば、耕作放棄地の解消だけでなく、地域そのものが元気になって、自ずと発展していく力も湧き出てくることでしょう。

**対策チームは情報をどんどん提供して、地域が自ら動きだすように仕向けていきましょう**

担当：JA・普及センターメイン・集落リーダー

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

手順6 事後点検(くり返し何度でも)

6-1

●耕作放棄地解消のための3W1H

【ポイント】

「Who」誰が？

「Where」どこを？(どの農地で?)

「What」何を？

「How」どうやって？

担当:全員

●順序だてて対象者や対象作物を具体的に絞り込んで相談しましょう。

→①担い手のSさんに②A集落の耕作放棄地で③露地栽培のブロッコリーを④JA出荷前提で取り組んでもらう

こんなことを対策チームのメンバーが提案したとして簡単に受け入れられるでしょうか？

集落内で作った組織と担い手のSさんとの協議の場があれば、成立する可能性は高まります。

対策チームは、協議の場を提供したりコーディネートする立場となって、双方の条件を調整していきましょう。

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

手順6 事後点検(くり返し何度でも)

## 6-2

- 農地管理の相手や手法に決まった形はありません。

### 【ポイント】

農業や地域を取り巻く情勢が変われば自然に変わるもの。大切なことは周りの変化に対して前向きに変化するように仕向けていくことです。

担当:全員

- ①担い手のSさんに②A集落の耕作放棄地で③露地栽培のブロッコリーを④JA出荷前提で取り組んでもらっていたが...

Sさんが農作業事故で農業を  
継続できなくなった場合...

集落で相談して、いろいろな方向を自ら考える。

- ①Sさん以外の人?
- ②自分たちで組織化?
- ③コスモスを作る?
- ④農業以外の利用方法?

**地域での話し合いが基礎になります。  
経済的なメリットが出るような活動をすすめていきましょう。**